

瑞龍寺 花園会だより

臨時増刊号 (平成23年3月31日発行)

発行 大圓山 瑞龍寺花園会
編集責任者 花園会副会長 小野 茂



慈恩院 (宮城県石巻市) 3月18日



托鉢 東日本大震災に遭われた方々へ 平成23年3月28日三越前で

悲しみを越えて

瑞龍寺住職 皆川 彰 久

この度、三月十一日、未曾有の大震災によって多くの

方々が亡くなり、太平洋沿岸

地域が壊滅的損害を被りました。

加えて、原発事故による

人災によって、地域住民が二

重、三重の苦しみを受けてい

る状況が現在も続いておりま

す。この国難に際し、当山も

宮城県とは過去百年にわたっ

て深い因縁のあるお寺です。

早速、様々に支援したいと考

え、取り合えず当山役員に計

り、義援金を送ることになり

ました。その内訳は下記に列

記しました。今、私たちに

出来ることは、人々の苦難を分

ち合う為にも、毎日ひと時の

黙想が必要です。日本人とし

ての共同体意識が今、改めて

一人一人に問われているとこ

ろです。当山花園会員の皆様、

今後とも被災された方々に対

する物心両面の御支援よろしく
お願い申し上げます。

さらに、三月七日、当山責

任役員、花園会会長佐藤浩氣

氏が急逝されました。長年に

わたる当山護持尽力は察して

余りあります。深く感謝致し、

哀悼の意を捧げ申し上げます。

今回臨時に、必要にせまら

れ会報を発行しました。よろ

しくお願い申し上げます。

合掌

義援金

一、百萬圓

宮城県気仙沼地区臨済宗

妙心寺派寺院と檀信徒

一、五十万圓

宮城県災害本部

一、三十万圓

托鉢義援金

一、十万圓

春彼岸法要義援金受付

突然のお別れ

「3月10日、瑞龍寺花園会会長をさ
れていた佐藤浩氣さんが、お亡くな
りになりました。」

佐藤浩氣さんを偲んで

花園会 副会長 小野 茂

3月10日午前10時過ぎに、佐藤様
が突然亡くなられたという悲報を聞



き、なぜ、どうしてあんなにお元氣
にしておられた方がと思うと、胸が
張り裂ける思いでした。

昨年春に、瑞龍寺花園会の会長
に就任され、これから私たち菩提寺
檀信徒600名の先頭に立ち、『お寺が
やって頂くのを待つのではなく、檀
信徒としてお寺に対して何をやる
か』を、会長として率先して提唱し
ておられた矢先に、突然のお別れに
言葉もありません。

思い起こしますと、一昨年瑞龍寺
創基百年の記念事業を執り
行うため、さかのぼること
2年前から、月に何度もお
寺に足を運び、我々役員を
引っ張ってくれたことが、
昨日のこのように思い出
されます。

昨年6月に、全道40名の
お坊さんや120名を超える檀
信徒が参加した十勝川温泉
を会場に行なわれた「花園
会地方大会のおかげさま運
動」において、発表した班
長の中でただお一人A0版
の大きな模造紙にお寺と檀
信徒との繋がりを書いて、
「綾小路きみまろ」を超え
るような笑いを呼ぶ解説を

してくれました。11名の発表者の中
では、一番の喝采と感銘を受けた内
容で、佐藤さんのユーモアのある一
面を垣間見た気がしました。

何事にも全力を傾けて取り組まれ、
お寺の行事では常に先を読み先頭に
立って準備され、終わった後では、
額に汗をかきながら後片付けをされ
ていたお姿に頭が下がりました。

これからは、佐藤さんの意志を継
ぎ瑞龍寺の護持発展に努めていきま
いと思っております。

私共が敬服してやまない佐藤さん。
どうか安らかに眠り下さい。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
合掌

編集後記

3月11日は、私たち日本人にとって忘
れられない日となりました。東日本を
襲った地震と大津波、その後起きた原
発の事故。多くの方々が亡くなり、家を
無くし苦しい避難生活を余儀なくされて
います。

震災の日からテレビで流れ出したAC
(民間広告ネットワーク)のコマーシャ
ルに何度も同じ音楽と画面で見苦しいと
クレームが多いと聞きました。その反面、
宮澤章二さんの「行為の意味」という図
書に注文が殺到しているそうです。

『心は誰にも見えないけれど、心づか
いは見える

思いは見えないけれど、思いやりは誰
にでも見える』

今、私たちに出来ることはこんな事では
ないのでしょうか。

この度新たに役員になられた方々



評議員 森 隆明



評議員 笹部 鎮雄



評議員 西 清延